

趣旨説明**公開学術シンポジウム****「わが国建築界の職能・資格・教育に今何が求められているか」**

山本 育三*

Ikuzo Yamamoto

研究所の沿革と活動 本学大澤記念建築設備工学研究所は1968年（昭和43年）に設立され、創設35周年を迎えました。本研究所の建物は、わが国建築設備界の草分け的存在でありました故大澤一郎博士（本学元教授・建築学科初代学科長）の尽力により、神奈川県・横浜市および大澤先生の薫陶を得て建築設備界で活躍されている多くの篤志家の寄付により建設されました。大澤一郎先生は、本研究所設立の3年前、1965年（昭和40年）に、わが国最初の建築設備技術者を養成するため、「建築設備工学科」を本学に誕生させておりましたが、大学教育のみならず、建築設備界の技術向上を研究面からも推進すべく、早くから大学院の開設と研究機関の設立を構想しておられました。大学院は建築学科と建築設備工学科とを母体にして1966年（昭和41年）開設され、さらに本研究所が設立されたことにより、本学における建築設備工学に関する教育と研究の体制が整ったこととなります。最近の少子化と建設界の構造的変革の中で、この度建築設備工学科は建築学科と統合することになりましたが、本学の伝統ある建築設備工学に対する教育と研究を引き続き継承し発展させるべく、本研究所はその牽引車となっているところです。

具体には、本研究所の所員を中心に研究活動の場として、委託研究の受託、委託研修生の受入れ、外部機関と連携した研究員の受入れと共同研究などを進めています。同時に研究発表や啓発活動として、年1回の研究所報の発行、講演会、研究所施設の開放と設備関連の資料常時展示などを行っています。

シンポジウムの概要 今回の公開シンポジウムは、このような本研究所の活動の一環として、研究所創設35周年を機会に企画したものです。

建築は長い発展過程で、各時代背景の下に、様式が主要なテーマであったり、人間性の問い直しが求められたり、構造・材料の開発であったり、コスモポリタン化であったりして来ました。今その意味で建築が問われているのは環境との共生です。地球環境の保全を図りつつ建設行為をいかにすべきか、建築環境の快適化を求めながらかつ周辺への影響をいかに少なくすべきか、建築が環境とどのように共生できるのか、などがこれからの建築の求める課題です。

一方、わが国の建築界では、最近まで建築士が唯一の国家資格として機能していました。しかし、技術の高度化、業の拡大に伴って、技術資格のより専門性が問われ、それに呼応する形で建築構造、建築設備、建築施工管理などの技術者に対する技術資格が国家資格や協会資格として定着し、建築士のみではなくなってきました。と同時に、産業全体の自由化の中で、建築界でもより専門技術者を対象とした技術者資格のグローバル化が余儀なくされようとしています。もっとも、これは、今のところ必ずしも国際的に共通の資格とはいえず、そこには経済活動上の側面、職能別の特性などがあり、同時に国内的にはこれまでの既得権にどう整合できるかなどの問題があります。それらの解決策はまだ確立されていません。

そのような中で、建築・設備技術の教育面でも何らかの対応をしなければならない訳ですが、学会を中心にJABEEへの指向がある以外、特にこれといった決め手は見当たりません。

今回のシンポジウムは、そうした背景に対して、わが国の各職能団体あるいは教育界で、それらの課題に精通し

*所員、建築設備工学科

ておられ、かつ一言をお持ちの方々を報告者或いはパネリストとしてお迎えし、方向性を探ろうとするものです。同時に、大学での建築・設備教育は職能とその資格を射程に入れてどのように対応すべきかを検討しようとするものです。

基調講演では、我が国の建築界関連職能の現状と資格の国際化を迎えてその課題と方向性について、本学教授・研究所員の藤本昌也氏を講師に、実践的立場から解説をしていただきます。

パネルディスカッションでは、建築関連の各職能人として活動しておられる方々、具体的には、都市デザイナーの立場から前述の藤本昌也氏、建築家の立場から東京大学教授の内藤廣氏、建築構造家の立場から構造設計集団の渡辺邦夫氏、建築設備家の立場から日建設計の牧村功氏に、それぞれ建築を造る上での課題、国際化に対応して持つべき職能資格と教育への課題について主題解説を頂きます。一方、職能の国際資格を射程に入れた建築学会を中心とした取組みについては、東京都立大学名誉教授の島田良一氏に主題解説を頂きます。また、関連職能同士のかかわりを討議していただきます。最後にそれらを受けて、大学での職能・資格を射程に入れた建築教育のあり方を論じていただきます。座長には、本学教授・研究所員の高橋健彦氏が務めます。

このシンポジウムには、神奈川県、横浜市、神奈川新聞社のご後援と(社)日本建築学会、(社)空気調和・衛生工学会、(社)電気設備学会、(社)建築士会連合会、(社)日本建築家協会、(社)建築設備技術者協会、(社)日本構造技術者協会、燦葉建築設備会のご協賛を、また本学生涯学習センター、本学科学生会の協力を頂きました。このシンポジウムが少しでも建築環境の向上に向けて、市民の方や建築関係の技術者、あるいは技術者を目指す学生の皆さんのお役に立てば幸いです。